毎月１５日発行　VOL.786　２０２４年１０月１５日発行

全肢連情報

ZENSHIREN BULLETIN

皆様からニュースのご提供を
心からお待ちしております

全肢連公式ホームページでも全肢連情報をご覧になれます
https://www.zenshiren.or.jp

全肢連　検索

□編集・発行
一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会
〒170-0005 東京都豊島区南大塚３－４３－１１
福祉財団ビル５階
ＴＥＬ：０３－３９７１－３６６６
ＦＡＸ：０３－３９７１－６０７９
メール zenshiren@zenshiren.or.jp

令和６年９月能登半島豪雨

令和６年９月２１日、台風１４号から変わった温帯低気圧、および活発な秋雨前線や線状降水帯などの影響で、石川県の奥能登地方（能登半島北部）を中心に記録的な豪雨となりました。

仮設住宅で浸水

同年元日に発生した能登半島地震の復旧工事においても土砂崩れや仮設材の流出・破損などが生じ、国道２４９号中屋トンネルの復旧工事に従事していた作業員１人が死亡するなどしました。

石川県によると、１０月４日までに１４～８９歳の男女１４人の死亡が確認されました。輪島市で１０人、珠洲市で３人、能登町で１人。いずれも元日の能登半島地震でも多くの犠牲者が出た地域です。

お亡くなりになられた方に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

〇石川県肢体不自由児者父母の会連合会　松田郁夫会長より
９月２３日のメール
「輪島市、珠州市の会員から下記の連絡が入りました。能登地区豪雨の被害状況が報道され、地震に続いて大変な状況になっています。昨日、Ｓさんから安否確認ができましたと連絡いただきました。浸水が心配でＦさんに電話をしたら、近くの避難所のふれあい健康センターは１階が浸水、自宅で過ごされたそうです。家の一筋隣の路地途中まで浸水したそうです。門前町のＫさんは、家が高台にあり大丈夫ですとのことです。他の会員さんは、みなし仮設住宅や親

戚の家で、金沢地区などに避難していて無事です。珠州市の仮設にいる家族などはなんとか浸水被害を免れたようです」

「奥能登は元日に大きな地震に襲われ、復旧は道半ばでした。それなのに９月の豪雨で追い打ちをかけられ、再び避難生活を強いられた人たちがいます。広がる景色は地震の被害なのか、豪雨被害なのか、一見して分からないといいます。能登の人たちの心がどうか折れませんようにと祈るが現実は厳しいようです。ようやく仮設住宅で安心して暮らせると思ったのに。道路も徐々に通れるようになったのに。地震の後は頑張ろうと思ったが、今度は気力も体力も湧いてこないという話を何度も聞きました。泥水は重く、簡単には片付かない。重労働に疲労が著しく作業が捗らない。それでも瓦礫も泥もいつかは片付き、失意の淵に沈む人たちが泥をかき出すなどボランティアの方々の献身的な活動に感謝し、その恩義を糧として踏ん張ってもらいたい。私たちも引き続き被災者に寄り添い支援を続けていきたいと思います。被害が大きくなった分、応援も力強くなると信じています」

仮設住宅で浸水

台風・豪雨時に備えて、ハザードマップを確認して、「普段からどう行動するか」を、決めておきましょう。

第４０回九州ブロック肢体不自由児者父母の会福岡大会

福岡県肢連 中川会長の挨拶

令和６年１０月５日（土）～６日（日）に、福岡県福岡市の「オリエンタルホテル福岡　博多ステーション」にて、多くのご来賓及び九州・沖縄各県父母の会会員、関係機関、関係団体、大会開催趣旨に賛同する一般参加者等の出席のもと、開催されました。

大会テーマには「親たちは願う　我が子に日々の喜びある暮らしを！現実的な居住支援制度を求める」を掲げました。

厚生労働省発表の「第７期（令和６～９年度）障害福祉計画」には、「重度化・高齢化した障害者で地域生活を希望する者に対しては、日中サービス支援型指定共同生活援助により常時の支援体制を確保すること等により、地域生活への移行が可能となるようサービス体制を確保する」とあります。現在、重度者を受け入れるグ

ループホームは少なく、受け入れられたとしても「必要かつ十分な介護量」と「日々の喜びが大切にされること」の両方に不安をもつ親たちは、重度の我が子をグループホームに送り出す勇気が持てません。

そこで、今大会では親たちの思いを語り合い、国の示す「サービス体制の確保」を、それぞれの地域で現実のものとするために、行政等への働きかけの動機付けとなることを目指して開催されました。

全肢連 清水会長の挨拶

大会は、開催地の福岡県肢体不自由児者福祉連合会 中川雅順会長の挨拶にはじまり、福岡県知事、福岡市長からご祝辞をいただきました。引き続き全肢連清水誠一会長からもお祝いのメッセージとともに、九州ブロックの各県肢連、地域父母の会会員の皆様をはじめとする関係者に向けて、更なるご健勝とご活躍を祈念しました。

基調講演では、講師に医師でもある参議院議員の秋野光造先生に、ご自身がかつて医療型障害児入所施設で勤務されていた経験などを中心にお話いただきました。

休憩をはさみ、現状報告として、福岡県福祉労働部 花田恭介 障がい福祉課長より「県における重度心身障がいのある方への支援について」、社会福祉法人あきの会障がい児者医療生活支援ホーム虹の家 中村佳奈 理事長より「乳幼児期・学童期・青年期・壮年期の医療と暮らしの実際と今後の展望」、福岡県肢連会員で社会福祉法人北九州あゆみの会地域活動部会 吉富すゞ子 副部長より「事業所と共に支える暮らし方」、福岡県肢連副会長で認定ＮＰＯ法人障がい者より良いくらしネット 服部美江子 代表より「福岡市における重度者の日々の喜びのある暮らしの場への取り組みについて」それぞれ報告いただきました。

情報交換会では、ワークショップたちばなによるガムランＧｏ Ｏｎ のアトラクションが披露されました。

ガムラン

２日目は、福岡県肢連副会長で社会福祉法人明日へ向かっての末松忠弘理事長による先進的な施設での取り組み等について、講演いただいた後、今回新たな試みとして企画された「グループ討議」を行いました。親・家族の置かれた状況から社会を見つめなおす、父母の会の皆さん自身の社会参加への思いや体験を出し合って、あるべき福祉の仕組み、社会福祉制度を探る機会となりました。

その内容は、ＡＤＬ（日常生活動作）とＱＯＬ（生活の質）の違いを確認し、「①施設やグループをＡＤＬだけの支援にさせずＱＯＬの支援を求めましょう。②

次世代に向けて、親自身も人生の選択肢を広げられるように考えていきましょう」について、活発な意見交換を行いました。

次に、以下の大会決議文が読み上げられ、満場の拍手にて採択されました。

一、　障がい児者の生涯を通じた不安のない生活のために、多様な障がい特性を踏まえた医療・看護・リハビリの支援体制、および情報アクセス整備を求めます。

一、　家庭生活を送るうえで医療的ケアの充実した通所施設や短期入所施設の整備の推進、　十分な量の訪問介護サービスを求めます。

一、　福祉環境整備のかなめとして、職員配置を厚くしそれぞれの個性・嗜好が尊重される居住施設（グループホーム等）の整備・充実化を求めます。

一、　親・家族の負担を前提とした障がい福祉制度のありかたを根底から見直し、個別需要に見合った必要十分なサービスの提供を行い、親・家族がそれぞれの人生設計を追求・実現できる制度の構築を求めます。

大分県肢連 濱田会長へ大会旗の引継ぎ

閉会式では、令和７年度開催地大分県肢連 濱田聖美 会長に大会旗が引き継がれ、２日間の大会が終了しました。

令和７年度は、７月１９日（土）～２０日（日）に大分県にて開催予定です。

iPadOS18・iOS18の新機能「視線トラッキング」

ｉＰａｄやｉＰｈｏｎｅのｉＰａｄＯＳ・ｉＯＳが新しくなり、PadOS18・iOS18（機種によっては対応していない場合もあります）では、視線入力が標準機能でつきました。最初に起動するとキャリブレーションが求められます。

設定→アクセシビリティ→視線トラッキングで視線入力の画面になります。

ｉＰｈｏｎｅの場合（以下、ｉＰｈｏｎｅ説明を引用）

視線トラッキングでは、視線だけでデバイスを操作することができます。ｉＰｈｏｎｅを安定した場所に置き、顔から３０㎝離してください。

設定

・視線トラッキングでは、画面のどこを見ているかを前面カメラを使って判断します。
・十分に明るい場所で、あなたの顔が覆い隠されずに全面カメラに写っていることを確認してください。
・最適な結果を得るためには、ｉＰｈｏｎｅを安定した場所におき、顔から約５０cm 離してください。

調整

・視線トラッキングをオンにすると、画面上の一連の点を目で追うように指示されます。
・視線トラッキングを適切に調整するため、それぞれの点を見つめてください。

滞留コントロール

・調整が完了すると、滞留コントロールがオンになります。
・ｉＰｈｏｎｅで操作するには、滞留時間中にコントロールにフォーカスします。そうすると、滞留コントロールによりその項目がタップされます。
・ホーム、ロック、コントロールセンター、スクロールなどのその他の操作はＡｓｓｉｓｔｉｖｅＴｏｕｃｈメニューで使用できます。

と、説明があります。

しかし、一旦ＯＦＦにすると、また起動のたびに設定が解除され、プロフィールを保存しないようで、使い方に制限がまだまだありそうです。

今の時点での過度な期待はできない感じがしますが、有効な使い方が見つかり次第、全肢連情報でも紹介します。

障害者向け衣服を支援　「インクルーシブウェア」　ＺＯＺＯ新サービス　最大５６サイズに対応

１０月１０日　読売新聞より

インターネットの服飾通販サイト「ＺＯＺＯＴＯＷＮ」を運営するＺＯＺＯは、身体障害がある人でも着用しやすい服「インクルーシブウェア」の生産・販売を支援する新たなサービスを始めた。多様なサイズを１着から生産できるため在庫リスクを減らせるメリットがあり、他社のブランドにも参加を呼びかける。

障害者向けの衣服加工サービス「キヤスク」を手がけるコワードローブと協業する。ＺＯＺＯの生産支援システムを利用し、注文を受け付けてから衣服を作る仕組みで、最大５６サイズに対応できるという。

障害がある人が既製服を購入する際は、自分に合うサイズを探すのが難しいことが多い。気に入ったデザインの衣服があっても、購入後、服を前開きに切り替えたり、ボタン留めをファスナーに替えたりするといった加工が必要な場合があり、費用もかさみがちだ。

車いすや足の装具を日常的に使用しているモデルの鳥居 百舌（もず） さんは「素材選びや、装具をつけても着られるゆとりがあるものを探すのに苦労する」と話す。

サービス開始に合わせ、ＺＯＺＯは車いすユーザーの悩みに応えたパンツの販売を始めた。足に障害があっても着脱しやすいよう、腰から裾や膝まで開閉できるファスナーを両脇に取り付けたほか、床ずれ防止のため尻の部分には縫い目を作らない設計にした。

ＺＯＺＯの長田富男さんは「この服を着て出かけたい、とポジティブな気持ちになれる服が増えるよう、おしゃれの選択肢を広げたい」と話す。

親子ふれあいキャンプ療育事業

令和６年度国庫補助事業

令和６年８月１１日（日）～１４日（水）に、グリーンヒル郷原（広島県呉市：広島県肢連）にて、動作法により宿泊研修会「広島心理療育キャンプ」が実施されました。

障害児１１名、保護者１７名、医師１名、指導員２名、その他２２名の５３名の参加者がありました。

主な研修内容は、「動作法キャンプへ望むこと・訓練会」等で、キャンプができることへの感謝とともに、ここからもう一度～という思いを共有しました。

療育研修事業

令和６年度国庫補助事業

令和６年９月２１日（土）～２３日（月）に、ＳＡＧＡパラスポーツセンター（佐賀県佐賀市：佐賀県肢連）にて、「佐賀心理リハビリティションキャンプ」が、実施されました。

障害児１２名、保護者１５名、スタッフ２０名の４７名の参加者がありました。

脳性麻痺やその他の障害のあるトレーニーに動作法を中心とした集団集中形式でキャンプを行い、その動作不自由の改善を図るとともに、集団療法や生活指導を行うことにより自主性や生活習慣を養うことなどを目的に開催しました。

療育キャンプ事業①

令和６年度ＪＫＡ補助事業

令和６年８月２３日（金）～２４日（土）に、ふみだすホール（北海道伊達市：北海道肢連）にて、「療育キャンプ」が、実施されました。４０名の参加者がありました。

① 在宅の障害児者と保護者を対象とした、日常生活及び療育方法と訓練及び知識・技術の習得
② 社会性の向上を図るために、高校生ボランティアや養護学校生と交流を図り集団行動及び宿泊体験を通し、自立性等を促すこと
③ 災害弱者(肢体不自由児者）の災害時の対応と個別避難計画の作成について

を目的に、防災士を講師に招くなどして行いました。

療育キャンプ事業②

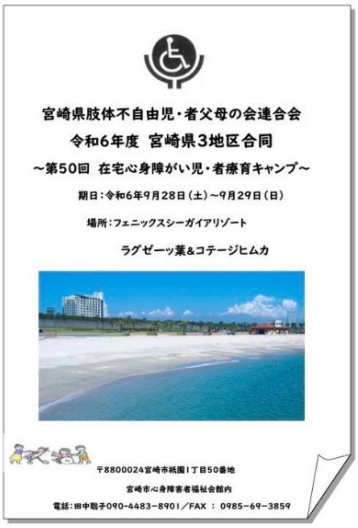
令和６年度ＪＫＡ補助事業

令和６年９月２８日（土）に、社会福祉法人あおぞら福祉会 工房シティ（石川県金沢市：石川県肢連）にて、「療育キャンプ（日帰り）」が実施されました。

４４名の参加者がありました。

「ふだんのケアは災害時どうなる？」をテーマに、研修を行い、災害時のトイレや災害食体験なども行いました。

療育キャンプ in フェニックスシーガイヤ



令和６年９月２８日（土）に、宮崎県肢体不自由児・者父母の会連合会主催で、在宅心身障がい児・者療育キャンプが開催されました。会場は、フェニックス・シーガイア・リゾートにあるコテージ・ヒムカ。内容は、肢体不自由児・者へのｅ－ＡＴ活用に関する保護者向け研修会と参加者向けｅ－ＡＴ体験会の２本立てです。

講演は、「肢体不自由児のデキルことを活かすｅ－ＡＴの活用について」肢体不自由児のデキナイことをデキルようにすること以上に「今デキル」ことに着目して、それを活かして活動に参加すること、それを具現化する一つの手段としてｅ－ＡＴを活用することがあるという

内容で、熊本高等専門学校の福島勇特命教授にお話しいただきました。講演では、参加されている皆さんとやり取りしながら「こんな話は聞いたことがありません」「もっと早くに知りたかった」という言葉が返ってきていました。

体験コーナーでは、ｅＢＯＣＣＩＡとＮｉｎｔｅｎｄｏ Ｓｗｉｔｃｈのマリオカート８デラックス。

いずれも、専用コントローラ、アクセシビリティスイッチ、視線入力のいずれでも体験できるように準備されました。

保護者向けの講演の間、子どもたちやきょうだい児にはそれぞれのブースで遊ぶことができました。

一口に肢体不自由といっても、その原因の疾患や程度に差がありますので、多様な入力方法が準備されました。特に株式会社ユニコーンが開発・販売しているｅＢＯＣＣＩＡシステムは、入力方法がバージョンアップしているので、参加者全員が楽しめました。

事務局から

〇シーティング研修会　　令和６年１０月１９日（土）～２０日（日）
　ユインチホテル南城（沖縄県南城市）
〇第５４回中国四国肢体不自由者父母の会連合会鳥取大会
　令和６年１０月２６日（土）　とりぎん文化会館（鳥取県鳥取市）
〇中央要望会　令和６年１０月２８日（月）　参議院議員会館 会議室
〇地域指導者育成セミナー（東海北陸ブロック）
　令和６年１１月２日（土）～３日（日）
　四日市市地場産業振興センター（三重県）
〇地域指導者育成セミナー（関東甲信越ブロック）
　令和６年１１月８日（金）～９日（土）　福祉財団ビル７階（東京都豊島区）
〇地域指導者育成セミナー（近畿ブロック）
　令和６年１１月２３日（土）～２４日（日）
　ホテルアバローム紀の国（和歌山県）
〇地域指導者育成セミナー（九州ブロック）
　令和６年１１月３０日（土）～１２月１日（日）
　もりまちハートセンター（長崎県）
〇第４６回全国特別支援教育振興協議会
　令和６年１２月６日（金）
　国立オリンピック記念青少年総合センター国際交流棟（東京都渋谷区）